

2018年5月9日

アプローチが難しい結石の回収をサポートする ディスポーザブル NT 採石バスケット「VorticCatch V」を発売

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、アプローチが難しい結石の回収をサポートするディスポーザブル採石バスケット「VorticCatch V(ヴォルティック・キャッチ・ヴィ)」を2018年5月10日から国内で発売します。

ディスポーザブル採石バスケットは、口から挿入した十二指腸内視鏡を通じて十二指腸乳頭部から胆道にアプローチする医療用処置具のひとつで、胆汁の通り道である総胆管にできた結石を除去するために用いられます。なお、本製品は5月10日(木)から12日(土)まで東京で開催される第95回日本消化器内視鏡学会総会(会長:東邦大学医療センター大森病院 消化器内科 五十嵐 良典 教授)に出展します。

今回発売する「VorticCatch V」は、胆道にある結石を除去する際に使用します。独自のワイヤ形状と耐久性に優れた素材を採用したことで、結石の取り込みやすさと外しやすさの向上を目指しました。また、従来のバスケット形状ではアプローチが難しかった総胆管下端のくぼみ(以下、総胆管下端ポケット部)においても、高い採石性能が期待されます。

●発売の概要

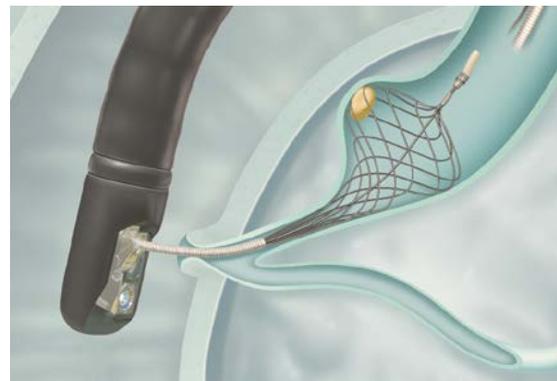
販売名	発売予定日
ディスポーザブル NT 採石バスケット V-System	2018年5月10日

●主な特長

1. 独自のワイヤ形状、耐久性に優れた素材の採用により、結石の取り込みやすさと外しやすさをサポート
2. 新設計のバスケット形状により、アプローチが困難な部位にある結石の容易なアクセスに貢献



ディスポーザブル NT 採石バスケット
「VorticCatch V」



総胆管下端ポケット部の結石(イメージ図)

製造販売元はオリンパスメディカルシステムズ(株)です。

●開発の背景

食生活の欧米化や高齢化社会の進展により、結石をもっている患者さんは増加傾向にあります。近年、内視鏡技術の進歩により、患者さんに負担の少ない内視鏡による治療が主流となってきています。

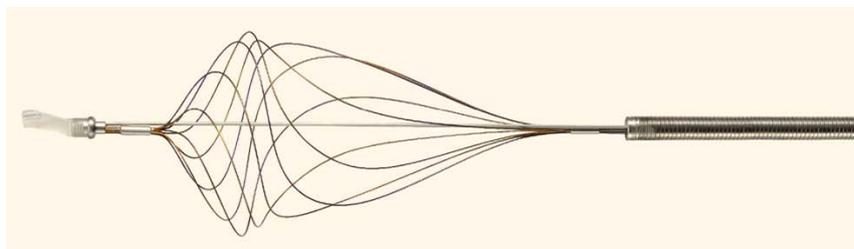
今回発売する「VorticCatch V」は、アプローチが難しかった総胆管下端ポケット部にある結石の除去を目指して製品開発を行いました。総胆管は人によってはくぼみ（総胆膵下端ポケット部）があり、そこにある結石は医師の技量に頼って治療しているのが現状でした。本製品はポケット部にある結石を容易に取り除くことを目指しました。

●主な特長の詳細

1. 独自のワイヤ形状、耐久性に優れた素材の採用により、結石の取り込みやすさと外しやすさをサポート

8本のワイヤをスパイラル状に組み立てた独自のワイヤ形状に加えて、耐久性に優れたナイチノール^{※1}を採用したことにより、結石を容易に捉えることを目指しました。ワイヤの密度を先端は高く、後端は低くしたことで、結石の取り込みやすさだけでなく外しやすさもサポートします。

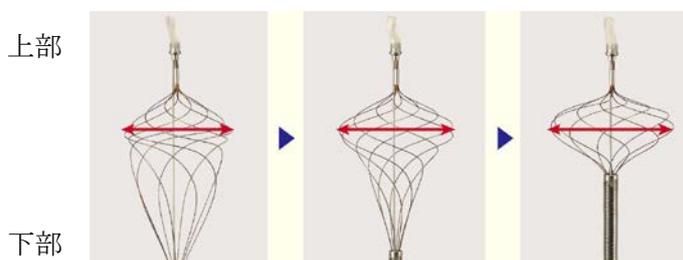
※1 形状記憶合金



「VorticCatch V」のワイヤ形状

2. 新設計のバスケット形状により、アプローチが困難な部位にある結石の容易なアクセスに貢献

VorticCatch V のバスケットは、下部が押されても上部の開き幅が保たれる形状になっており、結石の容易な回収に貢献します。そのため従来のバスケットではアプローチが難しかった総胆管下端ポケット部においても高い採石性能が期待されます。今まで困難とされていた結石の除去がスムーズにサポートされることで、症例時間の短縮や患者様の負担軽減も期待されます。



「VorticCatch V」のバスケット開き幅



総胆管下端ポケット部の採石
(イメージ図)

本リリースに掲載されている社名及び製品名は各社の商標または登録商標です。